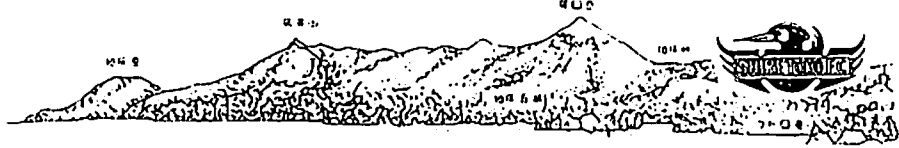


# 知床の森から

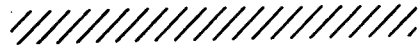


北見営林支局  
知床森林センター

☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町本町1番地  
☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

## ドングリ不作

——野生動物に影響！——



今年の冷夏による農産物の被害は各地で多大な被害をもたらしているところ。冷夏による影響は知床の森林にも影響を及ぼしています。

知床森林センターでは北見営林支局の技術開発自主課題に「知床国有林におけるミスナラ堅果結実調査」を掲げ、毎年継続して調査を行っておりますが、その堅果（ドングリ）の生産量がかなり低いのです。

平成元年の豊作から翌年一気に生産量はダウンし、平成3年4年と漸増した生産量も、今年は上昇は望めません。そして堅果そのものも例年とくらべ小粒が多く、光沢や膨らみに欠けるようです。健全完熟堅果の

比率は明らかに少ない状況です。ミスナラ堅果の豊作凶作の原因は確固とした理由が見出せない現状？と推測していますが、豊凶の要因の一つに気象条件があると思われます。長期的な調査と観察の必要なゆえんです。

種実の不作はドングリに止まりません。ヤマブドウやその他の種実類も不作で、野生動物にとっては飢饉の年といえます。異常な気候は自然に依存する人間を含めた多くの生き物に深刻な影響をあたえる……今年はそんな一年でした。



ミスナラと堅果（ドングリ）



人事 12月1日付の人事異動で、知床森林センター所長補佐の阿部征勝さんが、北見営林支局支局経理課に転出しました。お知らせいたします。

## 行く鳥 来る鳥

北海道の短いひと夏を過ごした多くの鳥たちが、繁殖と子育てを終えて暖かい地方を旨ざして飛び去りました。

知床半島をエリアに空をきっていたキタアマツバメ、低山の原野になくアカハラ・カッコウ・ノビタキ、平野部のウソ・ヒバリ、町でも見られるセキレイなどひと夏を彩ってくれました。

渡り途中のヒシクイ、オオハクチョウや多くのカモ類の大群もほとんと姿を消しました。

かわってオジロワシ・オオワシがこれからの厳冬期知床半島海岸部で見られます。冬期知床を訪れる方は望遠鏡持参をお奨めします。

ほかに留め鳥としてはオオセグロカモメ・カケス・トビ・ハシブトガラスなどは見なれた鳥ですね。

年が明けるとキレンジャクやツグミが大学して訪れます。ナナカマドの赤い実に群がって賑やかです。

知床森林センターの事務所から四季を通じていろいろな鳥たちの生態を観察できます。

いまは時々オオワシやオジロワシの飛翔が見られ、野鳥の知識と情報を提供してくれています。

オジロワシ



## いい場所発見



年間数百万人が訪れる知床半島、その秀れた景観と心象としての北国のロマンが人々を魅きつけています。こういうフィールドを持つ知床森林センターのイベントは、しかしながら一般的な観光とはいささか趣を異にしています。

日常体験できない森林に分け入り、森林が醸成している空間のいろいろな変化を感覚的・知識的に吸収できる舞台です。

センターでは日頃からイベントの目的を叶える場所を模索していましたが、3月中旬に予定している歩くスキーによる自然観察の場所を新たに設定しました。

雪解けを恋う北国のイベント参加者に対して、早春のこの場所はきっと気に入っていただけることと思っております。

## 夢？知床ビール！

政府の景気対策のひとつとして小規模「地ビール」製造を解禁する方針が平成5年8月31日発表され、これを受けて斜里町では10月上旬開かれた町議会で知床ビールの実現をめざす「小規模醸造所整備計画」を協議。

その素案によれば麦・ホップなど原料は地元斜里で手当て可能とかで、醸造の可能性は十分ある模様です。協議の結果、実施を前提に調査を進め、再度議会と協議することとなっておりますが、基本的には政府方針の内容と国会での議案承認がなされるかどうかにすべてがかかっています。

おらが町のビール！は町民のひとつの夢、ジョッキを手に町民は夢を語り、観光客は知床のロマンに酔う、町の活性化をふくめ「地ビール」実現を望むご仁は結構多いのでは……。